

2012年「音の日」記念講演より

「金沢蓄音器館の紹介」

2012年度 第17回「音の匠特別功労賞」

金沢蓄音器館館長

八日市屋 典之

ここでは、2012年12月6日「音の日」に行われた、金沢蓄音器館館長の八日市屋典之氏の記念講演を紹介いたします。八日市屋氏は、金沢蓄音器館館長として歴史的な蓄音器を多数収集し、それらを当時のままの状態でも再生することでオーディオの奥深さを広く伝える活動を続けられ、2012年度「音の匠特別功労賞」を受賞されました。

皆様こんにちは。本日は「音の匠」として顕彰していただきありがとうございました。

記念講演を行うように頼まれましたが私はこのような素晴らしい方々の前で講演をすることは慣れていません。いろいろと考えましたが金沢蓄音器館で毎日3回「金沢蓄音器館の聴き比べ」を行っていますので、本日はこのなかからの紹介・体験談を紹介させていただきたく思います。

本日使用する蓄音器はビクターのクレデンザですが、これは金沢から持ってきたものではなくビクターエンタテインメント社の社長室からお借りしてまいりました。



「ビクタービクトローラ クレデンザ」

さて、金沢蓄音器館は金沢市の尾張町にあります。ここは、八日市屋家が大正3年から蓄音器店を開業していた場所の丁度向かい側に当たります。

「山田屋蓄音器専門店」という名前でしたが長いので、時代に合うようにと市内の香林坊に出店した時に「山蓄」と店名を替えました。出店は昭和34年の12月8日で今日の12月6日の「音の日」と2日ちがっていました。

経営者であった父は、昭和50年ごろ蓄音器が粗大ゴミとして捨てられているのを見つけ、それを持ち帰って直してみるときちんと音が出ました。「今のうちにこれを残しておかないと蓄音器がこの世からなくなってしまふ、懐かしく、暖かでリアルな音色が消えてしまふ」と蓄音器とSPレコードの収集を始めました。

その結果、蓄音器が540台、SPレコードが2万枚集まり、これらを金沢市に渡して蓄音器館を作りました。平成13年7月のことです。



金沢蓄音器館外観

では内部をご紹介します。

まず中に入るとエレベーターで3階に行きます。金沢蓄音器館には開館後国内外から寄贈を受け、現在600台を超える蓄音器と3万枚以上のSPレコードがあります。このうち150台ほどを常時展示しています。

3階では、エジソンのろう管式蓄音器をはじめとして様々な蓄音器が並んでいます。

写真の左側がエジソンのラッパ型でその右側が卓上型、写真では見えませんがさらに右側にはポータブル型が並んでいます。大雑把に言って左側が明治、中央が大正、右側が昭和の時代の蓄音器と言えます。



金沢蓄音器館 3階

2階ではSPレコードを発売順に代表的なものを並べたマトリックスウォールがあり、さらに蓄音器の聴き比べコーナーになっています。

エジソンのろう管型、ラッパ型、卓上型、ポータブル型、コンソール型など10台ほど並んでおり実際の音を聴いていただいています。

11, 14, 16時と1日に3回、1回は30分から40分位です。この聴き比べは生の音色が聴けることでたいへん人気があります。デジタルの音に慣れた若い方々は、「優しい！目の前で演奏しているようだ」と驚かれます。昔、その音色を聞いたことがある方にはその時代にタイムスリップし、涙を流す人も多いのです。



2階 聴き比べコーナー

1階の半分は多目的ホールになっていてイベントが行われます。月に2~4回ほど開かれます。壁にはポータブル型を中心に約80台展示されています。その中には贋物もあります。

1つはコロムビアのもので、コロムビアのマークは16分音符で2本線ですが、贋物は3本線の32分音譜です。

もう1つはビクターの贋物です。ビクターマークは犬のマークで下に“His master’s voice”と書かれています。偽物は“His madam’s voice”となっています。大変におしゃれな偽物ですね。これらの偽物が出回るということは、本物はよい蓄音器だったという証だと思えます。



1階 多目的ホール

これはエジソンのシリンダー型蓄音器のアンベロール 30 型です。表のネットが外れているので内部のラッパが見やすくなっています。上部がロウ管で、これが回転して、上から針が上下振動をして音を拾います。その上に丸い平べったい振動板があります。これは雲母でできています。

この雲母の振動板が上下運動して後ろの管の中の空気を振動させます。空気は圧縮、拡張します。管はだんだんと太くなり、その出口がラッパになり、そこからさらに大きな空気の振動として音が聞こえるわけです。つまりエジソンがしたことは、人が見えるか見えないかわからないような小さな振動をはっきりと聞こえる音にしたことと言えます。電気を使わなくともこのように大きな音がでることにおどろかされますね。

エジソンの発明は 1877 年ですが、その 10 年後にベルリナーがエジソンの縦振動に対して横振動で音を記録するレコードを開発しました。このベルリナーが考えたのが私たちの知っている SP レコードです。これの優れているところは、上下でプレスすることで同じものを多数作れるようになったことです。つまり大量生産ができ、一枚当たり安くつくることができるようになりました。

これに対して、エジソンは横振動では音が良くないと考え縦振動で円盤レコードを作りました。これが”ダイヤモンドディスク L-35 型“です。SP と同じような円盤ですが、レコードは縦振動ですので VHS とベータのように方式が違うので互換性がありませんでした。この縦型レコードは、6 mm と厚く、ベルリナーの倍の厚さがありました。また、針はダイヤモンドを使ったため蓄音器はとても高いものでした。

さらにベルリナーの SP レコードには当時の一流の演奏家のソフトが多数ありましたが、エジソンのほうは音はきれいだが著名な演奏家のソフトが多くなかったことからベルリナーの SP レコードが普及しました。つまりエジソンが蓄音器の発明をしたが、それを広めたのはベルリナーだったといってもよいかもしれません。

本日はビクトローラクレデンザを用意しておりますのでこれで聴いていただきますが、金沢蓄音器館の“聴き比べ”では木製のラッパを使用したブランズウィック社製のバレンシア、イギリスの E.M.G、コロムビア NO.133A などいろいろな蓄音器の音を比較して聴けます。

本日のディスクはクライスラーの「美しきローズマリー」、エルビス・プレスリーの「ハウンドドック」等を用意しました。指揮者の佐渡裕さんは蓄音器マニアで「まるでアーティストが我が家にきて眼前で演奏しているようだ。リアル感が違う」とテレビで語っていました。



アンベロール 30 型縦振動蓄音

エジソン ダイヤモンドディスク
縦振動蓄音器

蓄音器を聴いたことがある人にとって蓄音器は古の世界へのタイムスリップすることができる「タイムマシーン」だといえます。ぜひご来館いただきご自身で体感してみてください。



ラッパのない蓄音器
ニッポノフォン ユーホン1号



英国グラモフォン ルミエール NO.460



国産第1号蓄音器ニッポノフォン 35号



開館10周年記念盤「甦る栄光の蓄音器」
全24曲 2500円(税込)



開館10周年記念盤名曲
コレクション全50タイトル 各1000円~2000円

先日夏休みに来館した小学二年生は、電気を使わないで針を振動させるだけで音が出る「蓄音器の不思議」に感激していました。また iPod の音になれた若い人も「高域が 6000Hz しか出ないのに何故こんなにリアルでやさしい音が出るの？」と驚きを隠せませんでした。初めて音色を聴いた人にとっては「未知との遭遇」です。

蓄音器の SP レコードも消耗します。意志をもって継続していかないと音は消えてしまいます。すこしでもこの音を残すために国立国会図書館のデジタルアーカイブ化に無償で音源提供をしていますが、できるだけ多くの人に生でこの音を聴いてもらいたいと思っています。

皆様のご来館をお待ちしています。ありがとうございました。

筆者プロフィール



八日市屋典之（ようかいちや のりゆき）

慶應義塾大学法学部卒。

金沢市を中心にレコード、オーディオ販売の卸、小売店を経営。

アンサンブル金沢をはじめ金沢にし・ひがし芸妓連、地元にゆかりのある歌手等の作品集など地域の音楽文化を盛り上げるため、数多くの CD、DVD のプロデュース、制作を手掛ける。

平成 15 年 11 月より金沢蓄音器館館長。

金沢蓄音器館のホームページ <http://www.kanazawa-museum.jp/chikuonki/index.htm>